



「伝統の味を暮らしの中に——」

かつては、町中の人たちが食べていたとされる畔藤キュウリ。

しかし今では、生産量の減少から、その名前すら聞いたことがないという方も増えてきました。

それでも、私たちの食文化と密接してきた伝統の野菜は、多くの人にその魅力が認められ、再び輝きを放とうとしています。

では、その発祥の地に住む私たちには、これから何ができるのでしょうか。

新野さんは、今回の取材の中でこう言いました。「地元の人にとって、キュウリと言えば、畔藤キュウリ」となれば、これから先も伝統は生き続けるだろう——と。

生産者でない私たちには、畔藤キュウリを「守る」ということはできませんが、その魅力を「伝える」ことはできます。

そしてそのためには、畔藤キュウリを「我が町の味」として知ることが必要です。

おいしさや香り、そして関わってきた人たちの思いがぎゅゅっと詰まった畔藤キュウリ。

まずは「食べること」から始めてみませんか。